

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520039

研究課題名(和文) 仏教東漸と東アジア仏教医学の展開

研究課題名(英文) Research of the transmission of Buddhism to East Asia and the Development of Buddhist Medicine in East Asia

研究代表者

多田 伊織(永瀬伊織)(TADA, Iori)

京都大学・人文科学研究所・非常勤講師

研究者番号：30310783

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：1. 唐代までの仏教医学は、独自の処方他に、地域に独特な処方や道教など他の宗教の処方を取り入れ、保存している。

2. 既に滅んでしまった医書も、部分的に復元できる。唐代までに成立した医書を解析し、類似の処方を並べる方法で、晋代等、更に古い時代の医書を一部復元し、処方の時代的変遷を見て取れる。

3. 今回利用した国内外にある江戸医学館の官医旧蔵の医書は、古医書の校訂に非常に役立つものであるが、傷みが進んできたので、電子化による国際的な知的財産の共有の推進が更に望まれる。

研究成果の概要(英文)：1. Buddhist Medicine till the Tang dynasty preserved local unique prescriptions and other religious, for example, Taoist Medicines except its original ones.

2. It is also possible to restore a part of lost medical books by enumerate similar prescriptions extracting from medical works till the Tang dynasty. It can show the transition of prescriptions reflecting the times and the religions.

3. This time we researched medical books at here and abroad which medical officers of the Tokugawa shogunate working at Edo Igakukan (Medical School in Edo 江戸醫學館) ever owned, they are very helpful in revising old medical works, but are regrettably getting worse, we hope to push with sharing the intellectual property by generating image data and electronic text data.

研究分野：文化交流史

キーワード：仏教医学 道教医学 江戸医学館 校勘 小島尚綱 楊守敬

1. 研究開始当初の背景

1. 散逸した唐代までの仏教医学文献の輯佚と復元と解析

IT技術の発達によって、医学文献が次々データ化され、散逸医書の機械的輯佚は飛躍的に簡単になった。しかし、機械的輯佚での問題は、底本が明示されているとは限らず、校勘が不徹底で、取捨選択の基準が曖昧であり、文字コード外の漢字については未処理のまま放置され、テキストに対して信頼が置けない点にある。この点について、多田は「史料紹介『医心方』所引『僧深方』輯佚-東アジアに伝播した仏教医学の諸相」(国際日本文化研究センター『日本研究』41 2010)において、精度の高い輯佚の形を示した。

今一つの問題は、大部の医書や写本の形で伝わる医書はデジタル化による公開は進んでいても、データ化されにくい点であり、データ化されても、他の文献等との歴史的連関についてはなかなか言及されない。敦煌吐魯蕃出土文書がこれに当たる。多田は印度学の出身であり、これまでもサンスクリット・パーリ語等の文献を用いて、日本仏教説話『日本霊異記』の解析を試みている(多田『日本霊異記と仏教東漸』法蔵館 2001)。

本研究では、精度の高い、信頼できる輯佚を行い、それを元に、中国語およびサンスクリット・パーリ語等で記述された散逸仏教医学文献についても復元を試み、仏教医学の受容と変容の解析を目的とする。

2. 海外流出した幕府の医学館関係者旧蔵の医書を中心とする調査(海外・国内調査)

江戸時代末期、医書の考証学は幕府の医学館関係者の研究によって頂点を迎えた。しかしながら、明治以降、医師免許制度の導入により、これらの学術成果は顧みられなくなり、医学館関係者旧蔵書は、中国を中心に大量に海外に流出する。真柳誠茨城大学教授によって、海外に流出したこれら医書の書目調査が広範囲に行われた(真柳誠「清国末期における日本漢方医学書籍の伝入とその変遷について」『矢数道明先生喜寿記念文集』1983、「台湾訪書志 故宮博物院所蔵の医薬古典籍」『漢方の臨床』2002~2007 ほか多数)が、医学館の個人・共同学術研究の成果を記録する日本抄本や刊本への書き入れ部分についての詳細な調査はまだ途上にある。多田は、科学研究補助金 H20(萌芽研究)H21~22(挑戦的萌芽研究)「『医心方』所引の仏教関連書籍から見る東アジアの仏教医学伝播の諸相(研究課題番号:20652004)」における海外調査において、台湾・香港・中国に現存するこれら資料の一部を目睹し、楊守敬『日本訪書志』の一部の内容が医学館の研究成果をそのまま流用したものであることを確認してきている。

本研究では、海外流出医書および関連する国内の文献調査を通じ、古医書輯佚の基本となる校勘の資料を集め、正確な古医書輯佚のために必要な対校の材料を得、これら資料の

重要性を周知することを目的とする。同時に、書き入れに見られる医学館関係者の議論等を収集し、楊守敬『日本訪書志』の記述と照合することによって、日本流出医書がその後の中国医学の発展にいかにか寄与したかを探る。

3. 海外の研究者との意見交流および海外への情報発信

古典医書研究においては、海外の研究者との意見交流が欠かせない。本研究は、中国・台湾現地調査から古典医書研究の専門家および隣接分野の研究者と学術交流を図る。

また、多田は2011年3~4月に開催された北米のアジア学会 Association for Asian Studies (AAS)の年次大会に参加し、日本の中国学の、特に欧米への海外発信がまだ不十分であることを実感した。これら国際学会で積極的に発表を行うとともに、アジア太平洋地域の研究者との学術交流を図る。

2. 研究の目的

本研究は科学研究補助金 H20(萌芽研究)H21~22(挑戦的萌芽研究)「『医心方』所引の仏教関連書籍から見る東アジアの仏教医学伝播の諸相(研究課題番号:20652004)」で得られた成果を基礎に、唐末までの医学について、散逸した仏教医学および関連する書籍を、日中韓の文献・出土文物から網羅的に輯佚・校訂し、他の医学文献および仏教・道教文献と比較対照することによって、仏教東漸が、東アジア医学の発展にどのように寄与したかを歴史的・思想的・地域的観点で解明しようとするものである。

本研究では次の内容を目的とする。

1. 散逸した唐末までの仏教医学文献の輯佚と復元
2. 海外流出した幕府の医学館関係者旧蔵医書の調査
3. 海外の研究者との意見交流および海外への情報発信

3. 研究の方法

研究方法は、以下の通りである。

1. 古医書輯佚に関しては、最善本の影印版を入手し、参照すべき他の文献の最善本と対照して、同一の処方箋の異文を出典を明記した上で併記し、古医書がどのように継承されていたかを明らかにした。
2. 文献調査については、現地で原資料を直接閲覧し、ノートに詳細を記述するとともに、複写・撮影が可能な場合には、それを行った。文献調査は、随時、1.の古医書輯佚にフィードバックした。
3. 海外の研究者との意見交流および情報発信では、国内外で開かれる国際的なシンポジウムや学会に参加して、成果を発表すると同時に、学術交流を図り、海外調査では、海外機関に所属する研究者と意見を交流した。

4. 研究成果

【平成 24 年度】

1. 散逸した唐末までの仏教医学文献の輯佚と復元と解析 散逸医書である「華佗方」「葛氏方」を『医心方』より抽出し、整理した。
2. 文献調査 海外 北京の国家図書館での資料利用が難しいため、代わりに調査先を台湾の故宮博物院、台湾大学及び国家図書館に変更、平成 25 年 2 月 25 日から 3 月 2 日まで渡航し、大野裕司氏の協力を得て、文献調査を行った。
国内 杏雨書屋を中心に、小島宝素堂旧蔵書の調査を行った。
3. 海外への情報発信、海外研究者との学術交流 6 月にはソウル大学で開かれた「第一回 Templeton 東アジアの科学と宗教、国際ワークショップ、東アジア世界の「知」の伝統：科学と思想、宗教のあいだ」で発表、質疑応答は活発であった。12 月に慶應大学で行われた The Sixth Conference for the Asian Society for the History of Medicine における発表は海外の多くの研究者の興味を引き、質問が相次いだ。2 月末からの訪台時には、中国医学の著作を多く発表されている林富士中央研究院歴史語言研究所副所長を台北の中央研究院に訪問、中国医学研究について、意見を交換した。
4. 成果発表 上記で言及した以外に行った学会およびシンポジウムでの発表は以下の通りである。
6 月 第 113 回日本医史学会学術大会 獨協医科大学(栃木県下都賀郡壬生町)
9 月 第 71 回日本宗教学会 皇學館大学(三重県伊勢市)
第 9 回万葉古代学公開シンポジウム 万葉文化館(奈良県高市郡明日香村)
11 月 国際日本文化研究センター共同研究会シンポジウム、日本庭園と作庭記 国際日本文化研究センター(京都府京都市西京区)
第 44 回国際研究集会、東アジアにおける知的交流 キー・コンセプトの再検討 国際日本文化研究センター(京都府京都市西京区)
3 月 小南先生古稀記念論集準備発表会、桃の会、京都大学楽友会館(京都府京都市左京区)

【平成 25 年度】

1. 散逸した唐代までの仏教医学文献の輯佚と復元と解析
散逸医書である「葛氏方」および葛洪に擬せられる医書を、『医心方』『千金方』『千金翼方』『医方類聚』等から抽出、整理した。
2. 文献調査 海外 北京での訪書調査にまだ支障があるため、調査先を台湾の故宮博物院・中央研究院・国家図書館に変更、2 月 16 日から 3 月 1 日まで渡航し、永塚憲治氏の協力を得て、文献調査を行った。
国内 金沢文庫等で文献調査を行った他、東博・奈良博等で古代の医薬を具体化する文物を参観した。
3. 海外への情報発信、海外研究者との学術交

流 2 月から 3 月にかけての台湾調査では、前半は中央研究院の施設に宿泊、祝平一研究員の斡旋で、中央研究院所蔵の漢籍の調査を行った。また、祝平一研究員の紹介で、院内の研究者と懇談し、東アジアの女性学や医学研究について、意見を交流した。

4. 成果発表 上記で言及した以外に発表を行った学会発表は以下の通りである。

- 5 月 第 114 回日本医史学会学術大会・第 42 回日本歯科医史学会学術大会 日本歯科大学(東京都千代田区)

【平成 26 年度】

1. 散逸した唐代までの仏教医学文献の輯佚と復元と解析 散逸医書である葛洪に擬せられる医書および「史脱方」等の零細な諸方を『外台秘要方』等から抽出、整理した。
2. 文献調査 海外 北京での訪書調査が思わしくないため、調査先を台湾の故宮博物院・国家図書館に変更、3 月 8 日から 3 月 15 日まで渡航し、文献調査を行った。
国内 国立公文書館等で文献調査を行った他、東博・奈良博・九博等で古代の医薬を具体化する文物を参観した。
3. 海外への情報発信、海外研究者との学術交流 11 月に台北で開かれた ICOM では、ポスターセッションを行い、台湾内外の研究者と掲示について質疑応答を行った。
4. 成果発表 上記で言及した以外に発表を行った学会発表は以下の通りである。
6 月 第 115 回日本医史学会 九州国立博物館(福岡県太宰府市)
9 月 第 73 回日本宗教学会 同志社大学(京都府京都市上京区)
10 月 第 66 回日本中国学会 大谷大学(京都府京都市北区)
11 月 第 65 回日本道教学会 あべのハルカス(大阪府大阪市阿倍野区)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

多田伊織、【研究ノート】幸田露伴一家の戦争—幸田文・青木玉の記録と記憶—、日本研究、査読有、Vol.48、2013、pp.201-234、

多田伊織、小島尚綱の後半生 鷗外『小嶋寶素』その後、桃の会論集、査読有、六集 小南一郎先生古稀記念論集、2013、pp.219-235、

多田伊織、歌木簡の成立 紙木併用時代の「木簡」とその意味、万葉古代学研究年報、査読無、Vol.11、2013、pp.85-103、

多田伊織、近世医書の流通とその行方 小島宝素堂関連資料をめぐって、日本医史学雑誌、査読無、60-2、2013、p.209、

多田伊織、葛洪撰述とされる医書とその伝播、宗教研究、査読無、88-別、2015、pp304-305、

〔学会発表〕(計 14 件)

多田伊織、(一般発表) 森鷗外『小嶋寶素』と小島尚綱『日新録』、第 113 回日本医史学会学術大会、2012 年 6 月 16 日、獨協医科大学(栃木県下都賀郡壬生町)、

多田伊織、(国際シンポジウム) 近世醫書の流通とその行方：『小島寶素堂資料集』をめぐって、第一回 Templeton 東アジアの科学と宗教、国際ワークショップ、東アジア世界の「知」の伝統：科学と思想、宗教のあいだ、2012 年 6 月 22 日、ソウル大学校信陽学術情報館(大韓民国ソウル市冠岳区)、

多田伊織、(一般発表) 六朝～唐代の仏教系散逸医書と伝存医書に見る医方の伝承関係、第 71 回日本宗教学会、2012 年 9 月 8 日、皇學館大学(三重県伊勢市)、

多田伊織、(シンポジウム) 主宰者および発表、うたとふみ 木簡に記されるテキスト、第 9 回万葉古代学公開シンポジウム、声から文字へ 木簡に記された詩歌と古代東アジアの詩歌の場、2012 年 9 月 29 日、万葉文化館(奈良県高市郡明日香村)、

多田伊織、(シンポジウム) 華林園の記憶 六朝江南から古代大和へ、国際日本文化研究センター共同研究会シンポジウム、日本庭園と作庭記、共同研究会：日本庭園のあの世とこの世、2012 年 11 月 9 日、国際日本文化研究センター(京都府京都市西京区)、

多田伊織、(国際シンポジウム) 言葉から実践へ 森鷗外晩年における「考証」の概念規定、第 44 回国際研究集会、東アジアにおける知的交流 キー・コンセプトの再検討、2012 年 11 月 16 日、国際日本文化研究センター(京都府京都市西京区)、

Iori TADA、(国際学会一般発表) The Sorrows of Young Shōkei, in the transition from Kampō medicine to modern science, The Sixth Conference for the Asian Society for the History of Medicine, 2012 年 12 月 14 日、慶應大学(神奈川県横浜市港北区)、

多田伊織、(一般発表) 小島尚綱の後半生 鷗外『小嶋寶素』その後、小南先生古稀記念論集準備発表会、桃の会、2013 年 3 月 23 日、

京都大学楽友会館(京都府京都市左京区)、

多田伊織、(一般発表) 小島寶素堂の終焉-小島尚綱と森鷗外『小嶋寶素』、第 114 回日本医史学会学術大会・第 42 回日本歯科医史学会学術大会、2013 年 5 月 11 日、日本歯科大学(東京都千代田区)、

多田伊織、「葛氏方」輯佚と葛洪の医方の伝承について、第 115 回日本医史学会、2014 年 06 月 01 日、九州国立博物館(福岡県太宰府市)

多田伊織、葛洪撰述とされる医書とその伝播、第 73 回日本宗教学会、2014 年 09 月 13 日、同志社大学(京都府京都市上京区)

多田伊織、葛洪所撰醫書考、第 66 回日本中国学会、2014 年 10 月 12 日、大谷大学(京都府京都市北区)

Iori TADA, Who is Ge shi?: Ge Shi Fang cited in I Shin Po and Wai Tai Mi Yao, The 17th International Congress of Oriental Medicine, 2014 年 11 月 01 日~2014 年 11 月 03 日、台湾大学医学院(台湾台北市中正区)、

多田伊織、『外臺祕要方』『醫心方』所引の「葛氏方」等葛洪に擬せられる醫方について、第 65 回日本道教学会、2014 年 11 月 08 日、あべのハルカス(大阪府大阪市阿倍野区)

〔図書〕(計 3 件)

多田伊織 他、国際日本文化研究センター、東アジアにおける知的交流-キー・コンセプトの再検討-、国際シンポジウム 44 2012、2013、408

多田伊織 他、京都大学人文科学研究所、術数学の射程 東アジア世界の「知」の伝統、2014、231

多田伊織 他、思文閣、『作庭記』と日本の庭園、2014、364

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

多田 伊織 (Iori TADA)
京都大学人文科学研究所・非常勤講師
研究者番号：30310783

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

研究者番号：90582726
日本学術振興会海外特別研究員 台湾大学中
文系客座研究員
大野 裕司 (Ono Yuji)
研究者番号：
公益財団法人 研医会・研究員
永塚 憲治 (NAGATSUKA Kenji)